

## 三線鑑賞会について

宣保 榮治郎\*

8年前、ハワイから三線の名器「西平開鐘」が帰って来た時に、ちょっとした騒動があった。というのは、これまで県指定の三線が11丁あるが、西平開鐘は戦前にそれ等を上回る評価（五開鐘の一つであった）を受けていたからである。18世紀頃の真壁里主が作った真壁型の中から特に音質の良いのを五つ選定し五開鐘と名付け、首里王家で愛用したと伝えられる。盛島開鐘、城開鐘、アマダンチャ開鐘、湧川開鐘、西平開鐘がそれである。五開鐘のうち、盛島開鐘、城開鐘、アマダンチャ開鐘は戦争で行方不明、湧川開鐘は傷跡を残したが県指定を受けており、戦前米国の仲間良樽金氏の下に行っていた湧川開鐘が里帰りをしたわけである。

早速、関係者により教育庁文化課に県指定の話を持ち上がり指定基準に照らして、指定手続きの作業が薦められたが専門家の鑑定により保留になった経緯がある。然し、その後、盛島開鐘が当館に寄贈され、準開鐘の富盛開鐘もハワイから里帰りし県立芸大に寄贈されるようになると、関係者の間からあらためて、三線の現況調査の必要性と、県指定を増やす必要があると言う動きが出はじめた。けれども、先記のように愛好家や関係者の熱意があればあるほどそれが、複雑微妙な動きになり指定業務が薦め難くなるようになった。そこで私が当館に勤務し、五開鐘の筆頭である盛島開鐘と準開鐘級の志多伯開鐘に親しく接するに及んで鑑賞会を企画したわけである。その目的を整理すると次のようになる。

- 1、文化財の指定制度を積極的に押し薦めること。
- 2、戦争で散り散りになっていた貴重な三線の所在を確認すること。
- 3、三線評価方法の確立（戦前派の鑑定家と戦後派の鑑定家の共同討議）。
- 4、開鐘に続く名器・名工の育成。

である。さらに付け加えるならば昔でよく言われているように、三線が沖縄文化の代



(★ぎば えいじろう 沖縄県立博物館副館長)

表的なものであるならば、それに対応するような扱いと制度を設ける必要があるのではないかと言う私一流のお節介からである。その作業は博物館の会議室で月一回のスペースで次のように薦められている。

## 第1回 三線樂器鑑賞会 (日時: 昭和61年8月25日 / 場所: 県立博物館)

### 1、「西平開鐘」真壁型 (所有者: 野原 俊一 住所: 与那原町字与那原352)

#### 特徴

ア、猿尾は象牙で継がれている。

イ、野に波形の斜めの木理が16波ある。

ウ、心に「西平開鐘」と銘が彫り込まれている。(開鐘は朱漆で銘が書かれているのが普通である。)

エ、重量 493g

(補注1) 琉球三味線宝鑑・池宮喜輝著によれば「本器は五開鐘の一西平開鐘である。屋部憲通氏が、伊是名殿内から譲り受け、後現所持者に渡った。五開鐘中沖縄戦後無傷で現存している名器で音面に特徴がある。戦前五開鐘の一つ」となっている。

(補注2) この名器は、米国の仲真良樽金が戦前沖縄から購入し、8年前に里帰りをした際に、県の文化財に指定しようとして保留された物である。この器の野にある波形の模様は、三線の壺(音の位置)を表すと言う伝説があったが、現在では木(木理)であるということが分かった。

### 2、「富盛開鐘」真壁型 (所有者: 県立芸大)

#### 特徴

ア、心に「富盛開鐘」の朱書きの銘がある。

イ、糸倉の巾が4分7厘の広巾である。

ウ、材質は赤味掛かっている。(黒木ではなくユシ木の可能性あり。)

エ、重量 455g

### 3、「屋良部崎開鐘」真壁型 (所有者: 野原 俊一 住所: 与那原町字与那原352番地)

#### 特徴

ア、天(中絃の範の上)に鶴目(赤い目)がある。中絃範の穴は赤味掛かっている。

イ、心に「×」印がある（野の延長線上）。

ウ、材は黒木である。

エ、重量 407g

オ、鳩胸の作り方に特長がある。

カ、心は下付き、野坂が深い6分。

（補注3）余屋良部崎ト言ウ三味線ヲ秘蔵セシニ依リ其ノ出所由来ヲ古老ニ就テ聴取シテ見ルト中々面白ヒ何故カト言ヘバ是レハ八重山島ノ屋良部崎ト言フ処ヨリ採取セシ黒木中ノ選良ナル優良材料ヲ以テ真壁里之子ト言ウ空前絶後ノ偉大ナル工士ノ制作品ニシテ尤モ会心ノ作トシテ古来重宝サレタル同氏制作品中ノ神品ト称スルモノナリト言ハレタルヲ以テココニ記シテ以テ後ニ示シ之ヲ伝家ノ秘蔵トナス（伝書より）

（補注4）昔、首里王から三味線の良材を八重山で求めるよう下知されたある人があった。方々を捜し廻るけれども気にいる黒木の良材は無かった。探しあぐねてとうとう屋良部崎まで来た。付近の海で漁をしている漁師にそのことを話すと漁師が岬の断崖に案内しこの木ですと言う。指さす方を見ると岩の間から黒木の枝が僅かばかり出ていた。

「これでは三味線は作れまい」と笑うと漁師は「裏へ回ってご覧なさい」と言うので言われた通り裏に廻ると黒木は岩の割れ目にはさまって見事なものであった由。この屋良部崎産の良材で作ったのがこの三線であると言う。

（宮城嗣周氏談）

（補注5）〔前持主〕首里金武御殿

〔その後の所有者〕ハワイホノルル市南ベレタニア街623

宮城 栄吉

〔備考〕真壁型の中でも特に鳩胸の形状他に類例がない。左の記録が添付されている。戦後五開鐘の一。

「屋良部崎開鐘は、八重山の屋良部崎より採取したる黒木の良材を以て真壁里之子、丹精を以て制作したる神器に付き屋良部崎開鐘と命名したるものなり。記して以て後世に示、伝家の家宝とす。金御殿 （琉球三味線寶鑑）」

4、「友寄開鐘」真壁型 （所有者：宮城 嗣幸 住所：与那原町字与那原579-1）

特 徵

ア、天の3分の1は継ぎ木されている。

イ、野坂は富盛開鐘に似る、鳩胸は鴨口与那に似る。

ウ、爪裏は白板。

エ、重量 410g

オ、材質は黒木。

カ、銘なし。

## 第2回 三線楽器鑑賞会 (日時: 昭和61年9月22日 / 場所: 県立博物館)



左から盛島開鐘、志多伯開鐘、川ノ上開鐘、江戸与那

### 1、「志多伯開鐘」真壁型 (真壁のタマイ型)

(所有者: 金城 紀光 住所: 保管県立博物館)

#### 特 徵

ア、均整のとれた素晴らしい型である。

〔昭和30年5月23日 県指定有形文化財 (工芸)〕

イ、心 (野の延長線上) に「志多伯開鐘」と朱書きの銘あり。

ウ、心 (野の裏側) に「伊江御殿」の朱書きの銘あり。

エ、漆塗は割合新しいと思われる。

オ、天は少々右方にひねっている。(隠れが左より右が少ない、ひねりと関係がある)

カ、乳袋の左下に埋木傷有り。

キ、材質は黒木

ク、胴（チーガ）の内側に「志多伯」と墨書きされている。

2、「川の上開鐘」真壁型（志多伯と兄弟三線・真壁のタマイ型）（所有者：志多伯  
に同じ）

#### 特 徴

ア、心（野の延長線上）に「伊江」の朱書きの銘あり。

イ、心（野の裏側）に「川の上開鐘」と朱書きの銘あり。

ウ、糸蔵、天、鳩胸の3か所継ぎ木されている。（分銅型くさびで継がれて  
いる）。

エ、長さ1尺5寸2分で普通型より5分短い。

オ、野に波形の木理がある。

カ、志多伯開鐘と好一対の名器である。

3、「盛島開鐘」真壁型（所有者：県立博物館）

#### 特 徴

ア、爪先（鳩胸の部分）が少し欠けている。（横に線様の傷となっている）

イ、心の裏側に「盛島開鐘」と漆で朱書きされている。

ウ、心の先端にキーウテ小（木落ち部分を埋木細工すること）がある。

エ、棹の漆が赤味かかっている。

オ、材質は黒木。

カ、心シダシ（滑らかに手入れ）されている。

（補注1）「沖縄三味線の最高峰盛島開鐘と城開鐘は、ともに尚家の所蔵であ  
ったが、戦時中邸内の防空壕に避難させてあったところ、空襲により消失し  
たとのこと。」（三味線寶鑑）

（補注2）沖縄戦で行方不明になっていた盛島開鐘が、沖縄本島中部の方が保  
管していることが分かり、元の所有者である尚家の肝入りで博物館に寄贈さ  
れた。

（補注3）城開鐘について 与那原の屋号グシクマ（泉崎病院長の父）が戦前  
尚家から購入し持っているのを見たことがある。故に戦争で無くなつた恐れ  
がある。（宮城嗣周氏談）

4、「江戸与那」与那型 (所有者：県立博物館)

(昭和33年8月15日 県指定有形文化財 工芸)

特 徴

ア、心（横側）に三つの穴があって、上より順に大、中、小（3分、2分5厘、2分の大きさ）となっている。

イ、銘なし。

ウ、音面から天へかけて赤味がかっている。（横筋の白板）

エ、材質は黒木。

第3回 三線楽器鑑賞会 (日時：昭和61年10月27日 / 場所：県立博物館)

1、「平安座八太郎」真壁型

(所有者：安座間 弘 住所：具志川市喜屋武311-10)

特 徴

ア、小形真壁で均整がとれている。

イ、材質は黒木。

ウ、重量 427g

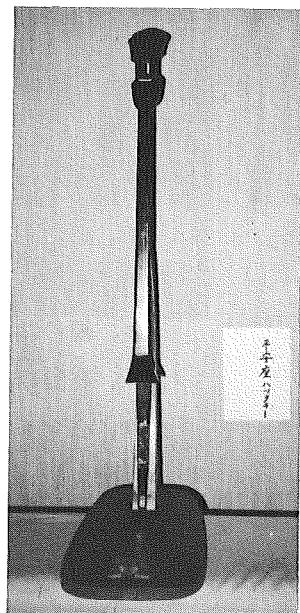
エ、音面の長さ 1尺5寸6分。

オ、鳩胸、野坂の位置で折れていたのを継いである。

カ、天裏に二か所、ひびがはいっている。

(補注1) 本品は安座間弘の祖父の時代に、首里の真栄田と言う人と馬一頭と交換した。「喜久山の三線」「宮里小の三線」とともに具志川の三名器の一つである。後の二つは戦争で行方不明。

(補注2) 本品には次のような逸話がある。「昔、船主で平安座ハッタラーという豪傑がいた。ある時その部下が彼を殺そうと企んだが、彼を慕っていた飯炊きが彼にそのことを告げたので、ハッタラーはこの愛用の三線を持って船から海に飛び込み難を逃れた」と言う。なお平安座ハテラーは実在の人で球陽にも出てくる。伊江島の芸能「南の島」にも鬼を退治する豪傑で出て来る。子孫は久志村を中心とした地域に住む。



平安座ハッタラー

ぐはいりょうたまぐしくよな  
2、「御拝領玉城与那」与那型 (所有者：島袋 正雄 住所：沖縄市美里1-11-13)

特 徴

ア、心の両側に「玉城」「与那」と金字（ペイント）書きがある。

イ、材質は黒木。

ウ、重量 432g

(補注1) 由来書あり。首里、玉城御殿、玉城与那等。

(補注2) 大正10年の沖縄での三線品評会で求む、1968年(昭和43年6月)ホノルル市の新里多呂氏に譲り渡す。1984年7月12日、新里氏より島袋氏が譲り受ける。

しまおくでんらい よながた  
3、「島袋伝来 与那型」(与那と真壁の折衷型か)

(所有者：島袋 正雄 住所：沖縄市美里1-11-13)

特 徴

ア、材質は黒木。

イ、重量 445g

ウ、音面の長さ 1尺5寸7分5厘

エ、全長 2尺5寸6分7厘

オ、心長 6寸7分5厘 玉城の銘あり

由 来

廢藩の頃、島袋の叔父知念松が求めたものを昭和41年に島袋正雄が譲り受けた。

第4回 三線楽器鑑賞会 (日時：昭和61年11月17日 / 場所：県立博物館)

1、久場の骨型 久場の骨型(太め)

(所有者：大村 運月 住所：那覇市首里久場川2-152-15)

特 徴

ア、久場春殿の小形化したもの。

イ、材質 黒木の一級品(木の狂いなし、心も真っ直ぐ)

ウ、銘なし。

2、小形真壁 (所有者：真崎 元章 住所：那覇市首里石嶺2-198-26)

特 徴

ア、均整のとれた上品な見事な形である。

イ、漆塗は、割合に新しいと思われる。

ウ、棹は少し左寄りに曲がっている。

エ、重量 412g

オ、全長 2尺5寸6分5厘、音面 1尺5寸9分5厘。

カ、心の上に「家傳 朝好」と書かれている。

### 由 来

戦争中、首里の人（婦人）から久志村の又吉が米と交換した。昭和26年の  
旧盆のころに大村運月がB円10,000に三線一丁をつけて購入し、その後現  
所有者の真崎に譲ったもの。

池宮喜輝は、首里仲田殿地のものであると言っていた。また文字を掘ったの  
は田名親雲上であると屋部憲通は言っていた。これと兄弟がハワイに渡ったと  
聞いている（大村 運月談）

3、「<sup>わくがーけーじょう</sup>湧川開鐘」（王朝時代の五開鐘の一つ。昭和30年5月23日 県指定有形文化財  
工芸）（所有者：高宮城 弘陽 住所：那覇市首里当の蔵2-13）

### 特 徴

ア、戦災で天に傷を受け（天の半分が焼失していた）たのを、戦後仲本三線  
店が糸蔵から上を切断し新しい木で接続した。

イ、心の上方に「浦添御殿、真壁里主作」と朱書きがある。

ウ、下方に「湧川開鐘」と朱書きがある。

エ、右方に「壯猶堂」と朱書きがある。

オ、心は長方形である。

カ、漆塗は戦後物。チーガも戦後物。

（補注1）戦前五開鐘の一つ、湧川開鐘。高宮城朝篤氏の所蔵で沖縄戦の戦禍  
にあい、面に傷を受け、改作。音面は幸に無傷。心に浦添御殿真壁里之子  
作。壯猶堂湧川開鐘の銘がある。（三味線寶鑑）

第5回 三線楽器鑑賞会 （日時：昭和61年12月15日 / 場所：県立博物館）

1、「<sup>めい</sup>銘入り志多伯」真壁型 （所有者：佐次田 清次 住所：石川市東恩納）

### 特 徴

ア、心に志多伯と朱書きされている。（但し後世に記入されたと思われる）

イ、心の先端は継ぎ足しされている。

ウ、重量 440g

エ、材質 黒木の上材

オ、心に、山城 松と白書きされている。

カ、漆塗は戦後であると思われる。

(補注1) 今次大戦終了当時、佐次田が600ドルで購入、1945年頃ハワイの山城松に渡り、昭和50年(海洋博の頃)佐次田家の家宝にと佐次田清増氏に戻り、1980年に清次が父から譲り受けた。

## 2、「当の知念大工」知念大工型 (所有者: 平良 淳亀 住所: 石川市東恩納40-1)

### 特徴

ア、材質 黒木

イ、漆塗は、割合新しい方である。

ウ、天及び鳩胸の線(筋)が知念大工形にしては際立っていない。

エ、心に銘記があったと思われるが、削り取られている。

オ、爪の左側に約9分位の戦時中に受けたと言われる欠損がある。

カ、重量 540g

由 緒 球陽下巻 二十二(817P) 尚泰王の頃「尚泰王6年、葵丑年、美里郡東恩納村 島袋筑登之親雲上の善行を褒嘉して爵位並びに物件を賜う。爵位、勢頭座敷、物件白木綿二反、三味線一丁。」とある三線であると伝えている。なお、島袋 筑登之親雲上は「当」の八代の祖である。

## 3、「仲加の小形真壁」真壁小形

(所有者: 平良 栄徳 住所: 石川市東恩納33 屋号「仲加」)

### 特徴

ア、材質 黒木(但し赤味を帯びる) 鶴目、大分弾かれた跡がある。

イ、銘なし。

ウ、小形真壁の上品な素晴らしい形である。(女三線と言われたものか)

エ、重量 340g

(補注1) 昭和21年6月頃に、父平良蒲吉が幸地亀千代より6千円と米一斗で石川市で求む。

第6回 三線楽器鑑賞会 (日時:昭和62年1月19日 / 場所:県立博物館)

1、「西原大徳銘入」南風原型 (所有者:内間 安信 住所:沖縄市宮里15)

特徴

- ア、心に西原大徳と刻字がある。
- イ、材料 黒木の上質材。
- ウ、乳袋は丸型で大きい。面はウフジラ(大型)である。
- エ、漆塗りは戦後と思われる。
- オ、心は荒削りであるが、少し左よりに曲がっている。
- カ、範の穴(男げん、女げんの間)の間隔が狭い。
- キ、重量 480g

(補注1) 今時の大戦中、首里の人が、国頭安波で一命を助けられた恩返しにと安田の人に呉れたもので、その後内間氏が求めた。

2、無銘 真壁型 (所有者:新垣正次郎 住所:石川市東恩納624)

特徴

- ア、野丸は与那型に似る。
- イ、心は右より少し曲がっている。
- ウ、材質 黒木(少し赤味掛かる)。
- エ、漆塗は相当古いと思われる。
- オ、重量 408g

(補注1) 昔、辻で評判の名器の一つであったと言う。戦後、幸地亀千代が愛用し、昭和22年頃当時1万円で売られ、その後、新垣氏が7,500円と三線1丁とで買いもとめた。

3、無銘 知念大工型 (所有者:新垣正次郎 住所:石川市東恩納624)

特徴

- ア、漆塗は割合新しい方である。
- イ、爪裏(ノミ型)は独特の荒削り。
- ウ、形がしっかりしていて、筋のはっきりした知念型。
- エ、心は真四角型。
- オ、範穴(ムデミー)、女げん下がり。
- カ、重量 480g

(補注1) 昭和42年頃、友利寛良氏が宮古から持って来た。昭和45年に新垣氏が三線(江戸与那)一丁と交換した。

#### 4、宣受銘入、平仲知念 知念大工型

(所有者: 福地 優 住所: 沖縄市諸見1-6-23)

##### 特 徴

- ア、型は真壁に類似(面は知念型に似る、爪は本来の知念型とは変わっている)。
- イ、上品な素晴らしい型である。
- ウ、心の上部に、宣受と刻字がある。
- エ、漆塗は割合新しい。
- オ、重量 443g

(補注1) 戦後、瑞ヶ覧朝保〔所有者の叔父〕から、福地家に贈られる。

#### 第7回 三線楽器鑑賞会 (日時: 昭和62年2月23日 / 場所: 県立博物館)

##### 1、「桑江良慎愛用の糸蔵長与那」与那型

(所有者: 島袋 信光 住所: 沖縄市知花172)

##### 特 徴

- ア、型は江戸与那型類似の大型で糸蔵が長い。
- イ、最大の特長は、乳袋の作りがやや丸味を帯び、上品に出来ている。その為に勘所「五」「上」「乙」が弾きやすい。
- ウ、磯と畦の幅が同じ寸法である。
- エ、材質 黒木の上質材。
- オ、猿尾の当初の漆塗が残っている。
- カ、範は太く、先端には牛骨で出来た花弁16個がある。
- キ、重量 530g

##### 由 緒

島袋信光の祖父の島袋永元が、客馬車用の馬を買う為に西原村小波津の馬喰の東内原の仁王主と連れだって那覇へ行く途中で、仁王主の三線の師匠である首里島小堀の桑江家の前を通りかかった。2、3曲聞く為に立ち寄った永元は、序に桑江愛蔵の三線二丁を見せられた。それは真壁と与那型であった。値段を聞くと与那が17円ぐらい、真壁はそれより5円上げであった。島

袋は与那が欲しくて交渉し、馬を買う為の金17円を即座に払って手にいれた。嬉しさの余り夜をついで知花の家まで帰った。父からは馬が三線になつたので大変おこられた。

翌日、内原の主は馬に乗って知花までやって来て、桑江さんが三線を手離したのを大変後悔しているので、昨日の買値で返して欲しいと持ち掛けたが、断つたので内原の主は帰つていった。暫くしてまた知花にやって来て、今度は5円上あげていから返してくれないか、そうでなければ真壁と換えてくれないか、頼んだが断つた。内原の主はねばつて一晩島袋の家に泊まって交渉したが、金を払つてからはこちらのものと断つたので諦めて帰つて行つた。この三線は誰にも触らせなかつた。

さて、沖縄戦が始まり島袋家では戦乱を避けて非難することになった。永元は大きな竹を三線の長さに切り、節を繰り抜いてその中に与那を入れ家の前の溝に渡してある石橋の天井に吊るして家を出た。戦争で捕虜になり具志川の高江洲に収容された。ある日、米軍のトラックに乗せられて知花の家の近くで作業をさせられた。永元は作業の途中から抜け出して、三線を隠してある場所に行つたら元のままちゃんと有つたので抱いて帰つた。2、3日経つてまた家の近くを通つたら、三線を隠してあった場所はブルトーバーで奇麗に敷きならされて、跡方もなかつた。間一発であった。この三線を買つたので島袋（前池の根）は借金が暫く残つたと言う。

## 2、「御拝堂、平仲知念」平仲型 (所有者：金城 敬三 住所：那覇市古波蔵197)

### 特 錴

- ア、真壁の大型で、やや平仲型。
- イ、材質 黒木の正目。
- ウ、心に「御拝堂」の銘字がある。
- エ、糸蔵にひび割れがある。
- オ、心シダシをやつしている（最近所有者がやつたとのこと）。
- カ、全体が入念に制作されている。大工の技術からして近年の作と思われる。
- キ、ノミ型も素晴らしい（巧妙に削られている）。
- ク、心の厚さは上幅が広い（付け根は逆である）。
- ケ、漆は上質の塗である。
- コ、重量 500g

(補注1) 昭和48年頃、豊見城金良の福仲のタンメー(当時90才位で糸数姓)が、与儀十字路の嘉手納三線店に売りにきた。夢にかたかしらを結った侍が出て「デイ、タンメー、サンシンヒチャビラ」と毎夜出て來たので恐くなつて売ることにしたとのこと。

そこで、那覇識名在の人が買つていったが、そのおかみさんも同じような夢にうなされたので、返しにきたところを鉢嶺元吉が購入し、金城に与えた。

3、「健堅与那」与那小型 (所有者: 仲村 弘 住所: 那覇市天久 845)

特 徴

- ア、心の上部に「健堅与那」、右側に「伊江王子」、左側に「高安朝常」と朱記されている。心は荒削り。
- イ、三線箱も古い(辻の上江洲作か)。
- ウ、猿尾に象牙の足しがある。
- エ、天の膨らみは真壁型に似る。
- オ、材質 黒木の上材。

由 緒

「健堅与那。曾て、摂政伊江王子(尚健)が本部間切健堅村に良器があると聞かれ、音曲の大家野村安趙命を受けて、がい地に赴き200貫で入手、献上、王子から四男朝常に譲与され健堅与那と称された名器」。

高安朝常—大城永義—花崎為光—中村弘。(譲渡証があり)。

資料1、県指定の三線一覧表

種別	名 称	員 数	指定年月日	所有者
工芸	三味線 翁長開鐘	一挺	昭30・5・23	野原 博
	志多伯開鐘	" "	" "	金城 紀光
	湧川開鐘	" "	" "	高宮城弘陽
	江戸与那	" "	33・8・15	博物館
	拝領南風型	" "	" "	山川 直徳
	南風原型	" "	" "	金城 幸喜
	知念大工型	" "	" "	奥間 キミ
	久場春殿	" "	" "	宮城 能久
	久場春殿	" "	" "	我部 シゲ
	久葉の骨型	" "	" "	金城 幸喜
	与那型	" "	" "	久保田清光

資料2、琉球三線楽器保存育成会会員名

宮城嗣周、宮里春行、宮平三栄、安富租竹久、又吉真三、島袋正雄、玉栄昌治、岸本吉雄、又吉元喜、新垣正次郎、仲本賢次郎、玉城靖文、友利安徳、比嘉常俊、照喜名朝一、宜保栄治郎